

添 田 町

み ん な で ま ち づ く り



指 針

令和4年3月 添田町

目 次

はじめに	1
1. 協働の背景	1
2. 指針の目的	2
STEP 1 知る	3
1. 「みんなでまちづくり」とは？	3
2. 「みんなでまちづくり」のプレイヤー	4
3. 添田町のまちづくり活動をみてみよう	5
STEP 2 参加する	7
1. あなたの悩みはなんですか？	7
2. あなたの興味はなんですか？	11
3. あなたの力を発揮するために	16
STEP 3 つながる	19
1. 個人とつながる：新しい仲間を探すために	19
2. 地域・団体とつながる：つながりで課題を解決しよう	19
3. 行政とつながる：「みんなでまちづくり」の推進体制	21
STEP 4 実践する	24
1. 実践の場づくり	24
2. モデルプロジェクトの実施	26
STEP 5 伝える	28
1. 戦略的な情報発信の必要性	28
2. 情報発信の戦略（何を、誰に、どうやって伝えるか）	29
3. 情報発信の仕組みづくり	30

知
STEP
1

参
STEP
加
2
す
る

つ
STEP
な
3
が
る

実
STEP
践
4
す
る

伝
STEP
え
5
る

はじめに

1. 協働の背景

令和3年3月、添田町第6次総合計画が策定されました。総合計画の基本構想には、「**10年後のありたい姿：いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち**」、及び**施策別の6つのありたい姿**を目指し、まちづくりを行っていくことが打ち出されています。これは、行政だけでなく**添田町民や添田町に関わる全ての人が目指すべきまちづくりの将来像**となっています。

しかし、この将来像の実現に向けて、添田町は人口減少や少子高齢化に伴う担い手不足、地域活力の低迷、財源不足などの課題を抱えています。加えて、多様化するライフスタイルや価値観に対応するための新たなアイデアも求められています。

これらの課題に立ち向かい、10年後のありたい姿を実現するためには、**町民、地域、町民団体、事業者、行政、町外の添田ファン**のみんなが添田町の魅力や課題を共有し、**一緒に知恵を出し合い、取組みを実行する**ことが必要です。



10年後のありたい姿（将来像）

いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち

誰もが孤立することなく健康で、持続可能な農林業や、人々の交流を生み出す観光などによる雇用創出を図り、豊かな自然環境のもと住み続けられる、住みたくなるまちをつくる



施策別のありたい姿

- 【定住・愛着】住みたい・住み続けたいまち
- 【稼ぐ・関係人口】人が集まり賑わうまち
- 【支え合い・助け合い】誰もが孤立せず健康に過ごせるまち
- 【安全・安心】安全・安心に暮らせるまち
- 【子育て・教育】子育て支援・教育が充実したまち
- 【関心・自立】自立と協働のまち

添田町第6次総合計画に掲げられているまちづくりの将来像

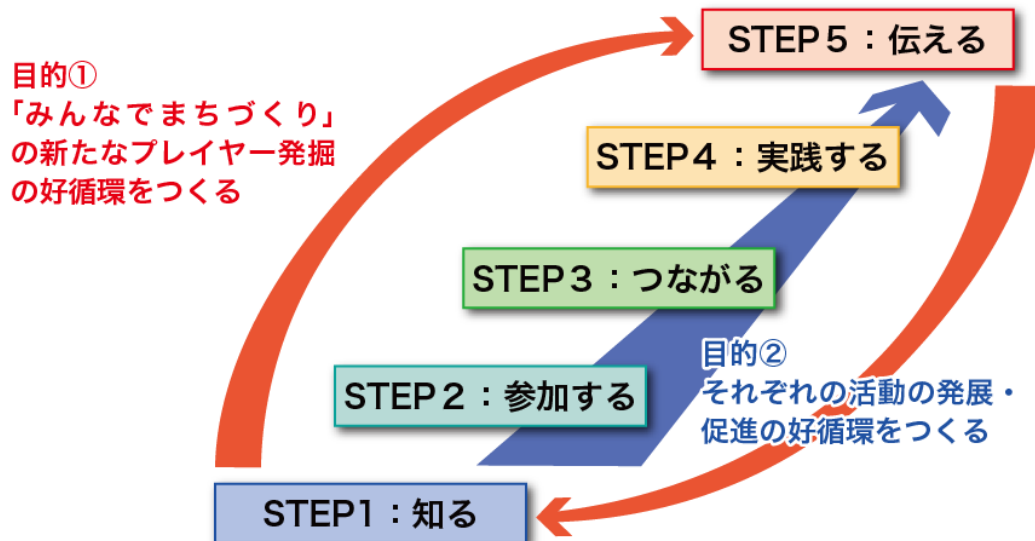
2. 指針の目的

これからの添田町は、町民と行政がともに 10 年後のありたい姿「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」の実現に向けた想いを共有する仕組みと推進力となる事業を構築し、協働のまちづくり（＝みんなでまちづくり）を確実に進めていく必要があります。

そのためには、まちづくり活動に日々活発に取り組む地域・町民団体から、まだ参画したことのない町民まで、それぞれの立場から添田町のまちづくりについて考え活動していくこと、そしてその活動に触れることで新たな仲間を増やしていくことを目指します。

本指針は、『①：「みんなでまちづくり」の新たなプレイヤー発掘の好循環をつくること』、『②：それぞれの活動の発展・促進の好循環をつくること』という 2 つの目的を定め、「知る」・「参加する」・「つながる」・「実践する」・「伝える」の 5 つのステップを実践していくまちづくりの基本的な考え方を示すものです。

まずは今の自分の現在地を確認し、みんなでステップアップしていきましょう。



「みんなでまちづくり」のステップアップイメージ

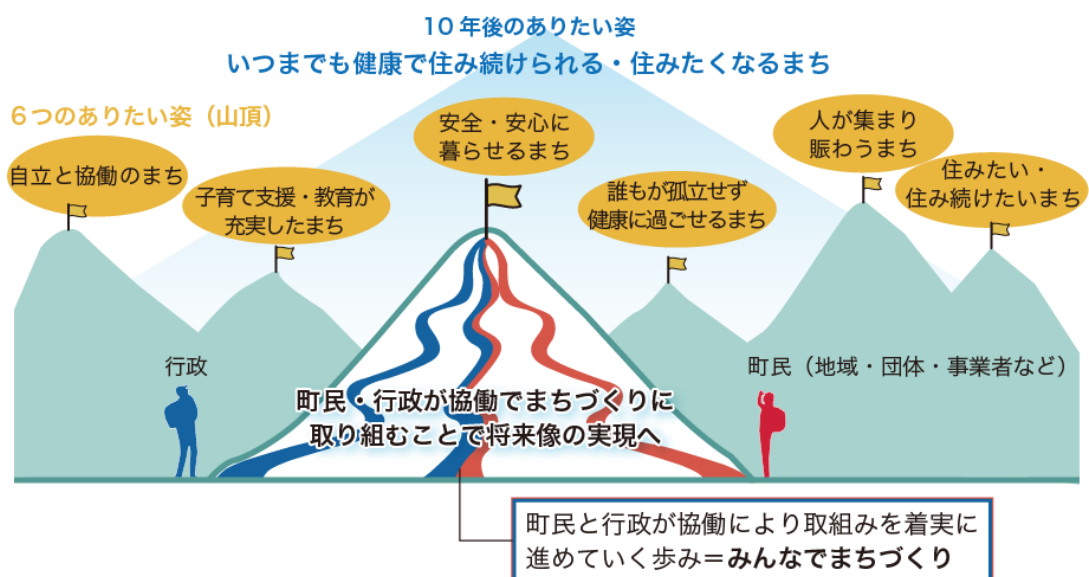
STEP 1 知る

1. 「みんなでまちづくり」とは？

「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」。この10年後のありたい姿の実現に向けた添田町のまちづくりは、眼前にそびえ立つ山の頂を目指して登っていく「登山」のようなものです。「ありたい姿」は山の頂から眺める風景であり、6つの山（施策別のありたい姿）を登り切った先に「10年後のありたい姿」という雄大な将来像がみなさんを待っているのです。そして、この素晴らしい眺めを得るために、町民と行政が山の頂を目指すスタートラインに立ったところです。

「みんなでまちづくり」とは、10年後のありたい姿の実現に向けて、協働のまちづくりを推進していくための添田町独自の合言葉としています。

地域、町民団体、事業者などを含む町民と行政と一緒に頂上を目指し、町外の添田ファンも巻き込みながら、取組みを着実に進めていきます。ありたい姿の実現を目指して、「みんなでまちづくり」を形にしていきましょう！



「みんなでまちづくり」の概念

知
STEP
1

参
加
す
る
STEP
2

つ
な
が
る
STEP
3

実
践
す
る
STEP
4

伝
え
る
STEP
5

2. 「みんなでまちづくり」のプレイヤー

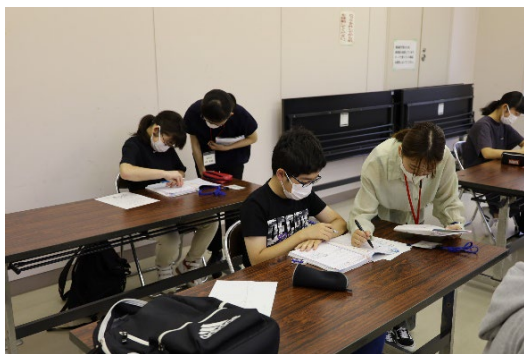
「みんなでまちづくり」の「みんな」とは誰を指すのでしょうか。ここでは添田町内で考えられるまちづくりの主体と求められる役割を次のように捉えています。

主 体	役 割	概 要
町 民	「理 解」	地域や町全体のまちづくりに関心を持ち、理解を深める。
	「参 画」	自らが「みんなでまちづくり」の主体であることを認識し、行政区・組に積極的に加入し、地域コミュニティ活動やまちづくり活動に積極的に参画する。
地 域	「参加促進」	住民同士の対話や交流の機会を設けるなど、多くの住民が地域のまちづくりに関わる機会をつくる。
	「課題解決」	地域独自の課題を共有し、解決に向けたメニューを考え、実践する。
	「連携促進」	他地域や町民団体との連携を積極的に行い、活動の効果を高めるとともに、町全体に波及させることに努める。
町 民 団 体	「地域貢献」	専門的な知識や情報など町民団体の特性を活かし、主体的に地域や町全体の課題解決に向けた活動に取り組む。
	「情報提供」	活動目的・内容を広く町民に理解されるよう努め、町民の参画のきっかけを提供する。
	「連携促進」	他町民団体や地域との連携を積極的に行い、活動の効果を高めるとともに、町全体に波及させることに努める。
事 業 者	「理 解」	地域や町全体のまちづくりに関心を持ち、理解を深める。
	「地域貢献」	人材、資金、ノウハウなどの強みを活かし、地域や町民団体、行政と連携し、地域や町全体の課題解決に向けた活動に積極的に取り組む。
行 政	「環境整備」	町民が「みんなでまちづくり」に効果的に取り組むための拠点や資源などの条件を整備する。
	「広報支援」	行政の情報発信力やネットワークを活かし、町民の取組みを広く発信し、取組みへの共感者が増えるような支援を行う。
	「情報提供」	町政情報や地域の情報をわかりやすく町民に提供するとともに、まちづくりに関する様々な情報の集約と共有を図る。
	「理解促進」	「みんなでまちづくり」について職員の知識を深める。地域や町全体の課題解決に向けて、公務員として主体的に関わる。
	「評 価」	「みんなでまちづくり」に関する事業を検証・評価し、添田町のありたい姿実現に向けた次の目標や事業の設定につなげる。

3. 添田町のまちづくり活動をみてみよう

添田町では、すでに多くのまちづくり活動が実践されています。その中のいくつかの活動を紹介します。

● 地域主体の活動



「英峰塾」・「英峰日進塾」：子どもの学習支援に地域・学校・行政で取り組んでいる。

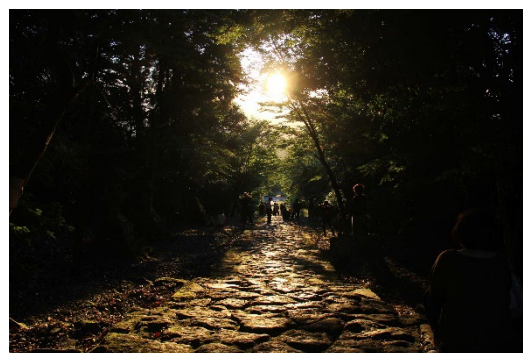


「津野小学校運動会」：保育園と地域共同の運動会を開催し、郷土愛や地域の絆を育んでいる。

● 町民団体主体の活動



「アカザを守る会」：アカザの保護を通じ、河川清掃活動や青少年育成に取り組んでいる。



「英彦山門前町同好会」：英彦山周辺の歴史・文化の保全・活用に取り組んでいる。

● 事業者主体の活動



「商工会青年部」：イベントの運営や清掃活動など地域貢献活動に取り組んでいる。



「HIKOSAN GARDEN CAMP」：ひこさん花工房跡地を活用したキャンプ場を運営している。

知
STEP
1

参
STEP
2
加
する

つ
STEP
3
なが
る

実
STEP
4
践
する

伝
STEP
5
え
る

コラム「協働ってななに？」

○協働とは

一般的に、共通する課題の解決や目的の実現のため、互いの特性を認め、対等な立場で役割分担を行いながら協力し、主体的に活動することをいいます。「協働のまちづくり」とは、町民と行政が、地域や町全体の課題解決に、ともに力を合わせて取り組むこととしています。

○協働に取り組む意義

協働に取り組む意義は主に以下のようなものがあります。

<町民にとってのメリット>

- ・多様な町民ニーズに対応した、よりきめ細かい公共サービスが享受できる
- ・町民の知恵と声が活かされた、添田町らしいまちづくりの実現につながる
- ・地域に対する誇りや愛着の醸成につながる

<行政にとってのメリット>

- ・多様な町民のニーズに応えられる
- ・役場だけでは対応が難しい課題や町民ニーズに対し、効果的・効率的に取り組むことができる
- ・行財政運営の改善につながる

STEP 2 参加する

1. あなたの悩みはなんですか？

(1) 添田町が抱えるまちづくりの課題

①協働によって取り組むべき社会課題

人口減少や少子高齢化が進む添田町では、農林業の活性化や関係人口の増加、高齢者の健康・生きがいづくりなどが大きな課題であり、町民の主体的な関わりが必要不可欠といえます。現在、地域や町民団体がこれらの社会課題に対応した活動をしています。

農林業 本町面積の大半を占める農地・山林の適切な管理・活用	・遊休農地や木材等の活用 ・食育等、地域産業への理解促進 ・産業を体験する場づくり ・生産者同士や関係者との体制づくり ・特産品等、新たな魅力づくり	・後継者育成 ・都市住民への魅力発信 ・事業資金の助成 など
観光 地域経済の循環と地域活力の醸成	・町民と来訪者の交流促進 ・歴史・文化等、地域資源の活用 ・活動資金の助成 ・新たな魅力開発によるブランド向上 ・取組みを企画・運営する人材の確保	・町外への情報発信力の強化 ・町の魅力についての認識 ・空き家・空地の活用 など
教育 地域に根差した歴史・文化の継承、地域・経済を支える人財の育成	・町民同士の交流促進 ・添田町に対する誇り・愛着の醸成 ・年中行事等、地域活動の担い手確保 ・地域の歴史・文化資源の保全・活用 ・地域とまちの連携体制づくり	・地域活動の場の確保 ・子どもへの教育 など
健康 高齢者の活躍・健康寿命の延伸、日々の生活の安心	・高齢者と若者世代の交流促進 ・高齢者の居場所づくり ・防災に対する意識向上 ・関係者との見守り・連携体制づくり ・健康・生きがいづくりの場の形成	・問題の早期発見 ・適切な情報提供 ・活動・資金の助成 など

協働によって取り組むべき主な社会課題

知STEP 1

参加するSTEP 2

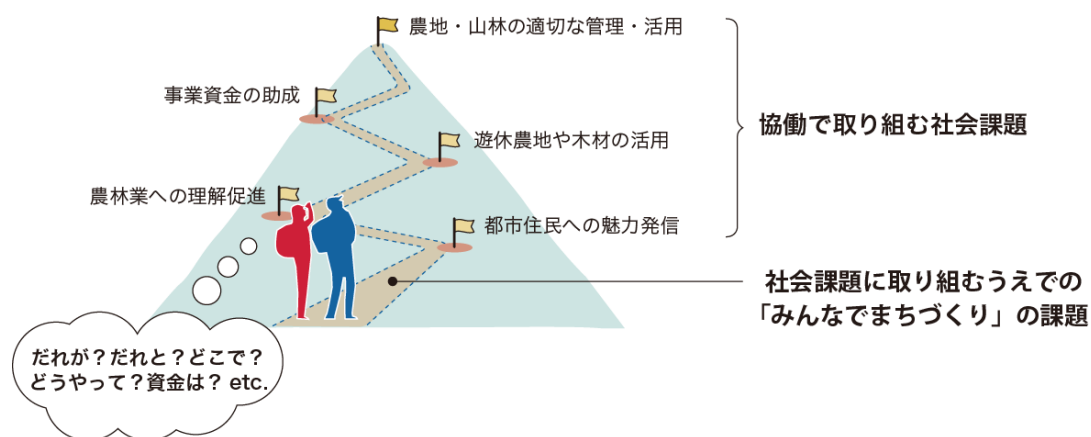
つながるSTEP 3

実践するSTEP 4

伝えるSTEP 5

②「みんなでまちづくり」の課題

社会課題に対応するために、まちづくりのプレイヤーである町民や地域、町民団体、事業者、行政はどうすれば良いのでしょうか。そこには、担い手の確保や環境づくり、活動資金、支援体制など「みんなでまちづくり」を進めるうえでの課題も抱えています。



社会課題（農林業分野の場合）と「みんなでまちづくり」の課題の関係

コラム「多様化する社会課題」

昨今の社会状況を鑑みると、日本が直面する人口減少フェーズは、少子高齢化と労働人口の減少を加速させており、地方自治体においても、財政基盤及び既存公共システムの脆弱化という形で顕在化してきています。

また、近年においては、台風や豪雨による災害が頻発しており、添田町においてもその被害を受けるなど、自然災害へのリスク対応は添田町に限らず、すべての市町村において大きな課題となっています。

さらに、新型コロナウイルスの世界的な流行下において、従来の行政システムや、町民のライフスタイルの転換が求められる等、想定していなかった社会課題が次々に表出する時代であると言えます。

一方で、デジタルトランスフォーメーション（DX：Digital Transformation）*のような概念に基づく技術の積極的な活用により、これまでに得られなかった新たなまちづくりへの視界が開けつつあることも事実であり、こうした社会の変化に対応していく柔軟性とスピード感がまさに求められています。

注）事業者がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、事業者文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。（「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）Ver.1.0」（経済産業省、平成30年12月）

(2)「みんなでまちづくり」の課題

「みんなでまちづくり」を推進していくうえでの課題は以下の通りです。

①意識が薄い

- まちづくりの担い手が不足している根本的な問題として、町民の**まちづくりへの関心の薄さ**が挙げられており、町民が広くまちづくりについて知り、関心を持ってもらう工夫が必要です。
- **協働の必要性が一部の町民にしか認識されていない**現状があるため、地域や組織内部に対して、互いに「**他人事**」の意識を変えていく必要があります。
- 必要性を認識していても**実践に踏み出せない**町民もいるため、添田町の地域や町民団体の活動について、広く知ってもらう必要もあります。

②プレイヤーがいない

- 地域や町民団体では、**住民の高齢化や単身世帯の増加などによる活動の担い手不足**が問題であり、活動や組織そのものを継続していくことが課題となっています。
- これまでの行政主導の取組みなどでは、参加者が限定的であったり、年齢層の偏りが見られました。今後は、参加機会の少なかった子どもや学生、子育て世代などから、**新たな人材の発掘と育成**が求められています。
- 上記のような人材の高齢化や人材不足を背景に、**まちづくりの実践を牽引するリーダーが官民ともに不足**しています。

③場所・機会がない

- 社会課題に対応する活動が必要とされている一方で、**新たな活動や事業をしたい人の実践を支援する場が不足**しているといった声があります。
- これは、2017（平成 29）年の九州北部豪雨による被害で不通となった日田彦山線の**駅周辺の衰退や、空き家の増加によるまちの賑わいの減少**と合わせて検討していく必要があります。
- 町民が協働について気軽に話し合いや打合せができる場や、地域・町民団体同士の交流・情報交換の場が求められています。このように、**地域の将来について町民で議論する場がない**ため、町民発意の取組みにつなげていないことが課題です。

④関係性が薄い

- 地域では、隣近所や世代間での交流が少なく、関係の希薄化が問題となっています。結果として、まちづくりに参画していない町民が増えています。
- 町民団体に関しては、分野を超えた取組みや公益的な取組みを実施しようとする場合に、**地域や町民団体、事業者の持つネットワークが十分活かしていない現状**があります。他の活動との情報交換も限定的なものとなっています。
- 地域ごとに独自の課題が存在し、きめ細やかな対応が求められますが、**地域の問題や要望を整理し、行政に伝えるプロセスが確立されていない**ため、双方が協働で課題に取り組む意識が育っていない現状にあります。
- **まちづくりに関わる主体を庁内で総合的に所管する部署がなく、全容の把握ができていない**ことも課題です。

⑤資金がない

- 会員からの会費や行政区からの助成金（少額）で活動が続けている町民団体の多くは、**活動資金の不足**という問題を抱えています。
- 一方で、活動を支援する町の制度も多くはないため、**多様な活動資金の調達手法の確立が大きな課題**となっています。
- 行政主導の取組みでは、**行政の予算がなくなり事業が継続できない**といった問題が生じます。

⑥情報が届かない

- 広報誌や回覧板、町のホームページが主な情報発信手段のため、若い世代など**情報を届けたい相手に届いていない**といった問題があります。
- 情報が魅力的な内容でないため、届いても関心を持ってもらえないといった**受け手側のニーズと発信内容のギャップ**という問題もあります。
- 地域や町民団体、事業者、行政が主体的に取り組んでいる活動に対して情報の受け手が共感し、**積極的な参加・協力につなげていくための効果的な情報の発信**が必要です。

2. あなたの興味はなんですか？

町内のまちづくり活動に関わる団体は、大きく「地域型」と「目的型」があります。

あなたが興味のある分野、活動はありますか？

地域型	・ 町内 34 の行政区や校区などの地域単位で、防犯パトロールや美化活動といった住みよい環境づくりやコミュニティ維持のための活動 ・ 地域によっては、高齢者の健康づくりや伝統芸能である神楽・獅子楽の継承など、地域の課題に特化した活動も盛ん
目的型	・ 子育て支援や環境保全などの目的に特化した活動 ・ 目的に共感した町内全域や町外からのメンバーで活動が行われる ・ 独自の経験と知識、ノウハウを強みにしている

● 地域型の主な活動団体

	団体名称	活動地域	活動分野	活動概要
1	行政区長会	各行政区	教育・健康	町との連携、広報配布など
2	老人クラブ（長生会）	各行政区	健康	地域活動
3	子ども会育成連合会	各行政区	教育	各行政イベント行事など
4	婦人会	町全体	健康	見守りなど
5	青年会	各行政区	教育・健康	地域活動
6	壮年会	各行政区	教育・健康	地域活動
7	地区公民館長会	町全体	教育・健康	地区公民館相互及びそえだ公民館との連携を図る
8	添田町地域学校協働本部	町全体	教育	学習支援「英峰塾」の参画、学校・地域の連携・協働
9	上落合須佐神社獅子楽保存会	落合	教育	上落合集落の獅子楽の継承、毎年5月上旬に奉納
10	下落合獅子楽保存会	落合	教育	下落合集落の獅子楽の継承、毎年5月上旬に奉納
11	重文・中島家住宅推進協議会	添田	教育	重要文化財中島家住宅の活性化に関すること
12	津野神楽保存会	津野	教育	津野集落の神楽の継承、毎年5月上旬に奉納
13	野田獅子楽保存会	野田	教育	野田集落の獅子楽の継承、毎年5月中旬に奉納
14	英彦山神輿を担ぐ会	英彦山	教育	英彦山神幸祭の神輿担ぎの継承、毎年4月中旬の土日に奉納
15	彦山踊り保存会	英彦山	教育	彦山踊りの継承
16	落合こてんぐクラブアンビシャス広場	落合	教育	子どもの居場所づくり、体験活動
17	鷹巣原地域活性化委員会	英彦山	教育	高住神社で行われる祭礼の周知と伝統的活動の継承
18	伊原お手伝いの会	添田	健康	高齢者の集い場づくり、生活支援
19	添田東ふれあいサロン	添田	健康	高齢者の交流、介護・認知症予防
20	上津野村づくり推進協議会	津野	農林業・観光・健康	生活環境の整備、収穫祭の開催
21	上落合二区活性クラブ	落合	健康	研修会、イベント実施
22	中元寺の自然を愛する会	中元寺	農林業・観光	地域活動、イベント行事
23	彦山を美しくする会	英彦山	観光	環境美化、利用施設整備

知
STEP
1

参
加
す
る
STEP
2

つ
な
が
る
STEP
3

実
践
す
る
STEP
4

伝
え
る
STEP
5

● 目的型の主な活動団体

	団体名称	活動地域	活動分野	活動概要
1	添田町知ってもらいたい隊	町全体	全て	移住や関係人口づくりにつながるまちづくり活動
2	添田町活性化推進協議会	町全体	観光	花壇づくりなど
3	添田町郷土史会	町全体	教育	添田町の歴史・文化の調査・情報発信、郷土史誌そえだの刊行
4	英彦山門前町同好会	英彦山	観光・教育	英彦山に係る体験・勉強会・マップ作成
5	トチノキを守る会	英彦山	教育	県指定天然記念物「英彦山トチノキ」の保護活動と周知
6	一輝会	津野	観光	イルミネーション、灯ろうなど
7	英彦山参道駆け上がり大会実行委員会	町全体	観光	イベント実施
8	添田町観光ガイドの会	町全体	観光	歴史文化・観光案内
9	居・食・住研究会	町全体	農林業・観光	駅前にぎわいマルシェ等イベント開催など
10	添田町就農支援推進協議会	町全体	農林業	添田町就農実践塾の運営
11	農業青年会	町全体	農林業	体験農園
12	(社) ATOCHI DESIGN	英彦山	観光	町所有地でのキャンプ場の運営
13	猟友会	町全体	農林業	鳥獣対策
14	添田町商工会青年部	町全体	観光	英彦山サイクルタイムトライアルの運営など
15	添田町社会体育協会	町全体	教育	各行政イベント行事など
16	そえだまち元気倶楽部	町全体	健康	65歳以上の町民対象とした食事・体操・レクリエーション
17	添田町女性ネットワーク	町全体	健康	町内の女性のシニア、次世代、子育て世代のネットワーク構築
18	シニアパワーアップ塾	町全体	教育・健康	趣味・地域活動講座の実施、子どもたちとの交流・学習支援
19	添田町げんきクラブ	町全体	教育	総合型地域スポーツクラブ
20	アカザを守る会	町内河川周辺	教育	町内河川の淡水魚調査、河川清掃活動、青少年育成活動など
21	油木ダムを美しくする会	津野	観光	油木ダム周辺の環境整備、森づくり、公園の美化など
22	庄地区彦山川川づくり懇談会（彦山川清掃活動）	庄（彦山川周辺）	観光	草刈り、ごみ拾い等の美化・清掃活動
23	添田大任地区交通安全協会	町全体	健康	児童・生徒の登下校の見守り
24	添田竹ノ会	町全体	農林業	竹森の整備、タケノコ堀など
25	添田町青少年育成町民会議	町全体	教育	見守り・各行政イベント行事など
26	添田町「虹の会」	町全体	教育	読書活動
27	添田町読書会	町全体	教育	読み聞かせなど
28	添田町学校図書館支援スタッフの会	町全体	教育	子どもの読書活動支援など
29	英彦山こてんぐ塾	英彦山	教育	環境学習、子ども向け体験イベント（大人も体験）、自然歴史、文化
30	添田食進会	町全体	健康	食、料理研究・交流の会（オークホール）
31	NPO法人アートもん	町全体	農林業・観光・教育	子ども向け工作教室、木くまつりinそえだ主催
32	あっぶっぶ	町全体	教育	ベビーマッサージ・育児相談、保健師からのアドバイス
33	めだかっこ	町全体	教育	子育て支援活動
34	おんぶに抱っこ	町全体	教育	保育士・保健師による子育て相談、親子交流

※ これまでのワークショップ等で得られた成果であり、全ての活動・団体を網羅するものではありません。

STEP 1
知る

STEP 2
参加する

STEP 3
つながる

STEP 4
実践する

STEP 5
伝える

活動紹介① 地域の絆で行政区の活性化を目指す「上津野村づくり推進協議会」

【活動の種類】 地域型 【活動地域】 津野 【活動分野】 農林業・観光

【協働の形態】 (主催) 上津野村づくり推進協議会 (協力) 行政区

住民同士の関わりや地域の活力を取り戻そうと、平成 10 年に「上津野村づくり推進協議会」が発足し、38 人のメンバーで活性化センターや親水公園などの生活環境の整備、グリーンツーリズムの開催など、住民が主体となったまちづくりを行っている。

結成当初から毎年行っている収穫祭は、子ども会が主催するヤマメ釣り体験や、手作りのしし鍋など、住民みんなで作る地区最大のイベントへと成長している。



活動紹介② 地域の高齢者の居場所づくりに取り組む「添田東ふれあいサロン」

【活動の種類】 地域型 【活動地域】 添田 【活動分野】 健康

【協働の形態】 (主催) 添田東ふれあいサロン (協力) 行政区

一人暮らしの高齢者の不安や悩み・寂しさの解消や、介護・認知症予防を目的として平成 19 年に発足し、添田東公民館を拠点に月に一度、健康体操やレクリエーション、作品づくり、誕生日会などの活動を行っている。

14 人のスタッフは福祉やレクリエーションの指導ができるよう研修にも励み、多数の見学者や表彰を受けるまでに成長している。毎回 30 人程度の参加者があるサロンは、仲間づくりの場にもなっており、地域住民同士のつながりも育んでいる。



活動紹介③ 英彦山・落合地域の自然・歴史文化を伝える「英彦山こてんぐ塾」

【活動の種類】 地域型

【活動地域】 英彦山

【活動分野】 教育

【協働の形態】 (主催) 英彦山こてんぐ塾 (支援) 町、落合子てんぐアンビシャス広場
(協力) 落合小学校、英彦山門前町同好会、添田町観光ガイドの会等

地域の自然や文化、歴史を通じ子どもの社会力を育成することを目的に、平成 24 年に発足。英彦山神宮神幸祭への参加や英彦山ガイドボランティア体験、クリーン活動といった英彦山・落合地域での学習や環境保全活動などを通して、地元の落合小学校や英彦山門前町同好会、英彦山地域デザイン LLP 等の多様な団体と連携している。



活動紹介④ イベントを通し町内外へ木や林業の魅力を伝える「NPO 法人アートもん」

【活動の種類】 目的型

【活動地域】 町全体

【活動分野】 農林業・観光・教育

【協働の形態】 (主催) NPO 法人アートもん (後援) 県、町、英彦山神宮、林業事業者
(協力) 複数の町民団体や事業者

林業の活性化や教育に関連して、木をテーマに学び遊べるイベント「木もくまつり in そえだ」が「NPO 法人アートもん」の主催で、添田町や県・町教育委員会、町森林組合をはじめとする林業事業者、その他多くの団体と連携し実施されている。こうした活動は添田産品の PR や関係人口の増加、木や林業への理解促進等に寄与している。



活動紹介⑤ 地域・分野を超えた町の魅力向上に寄与する「英彦山サイクルタイムトライアル」

【活動の種類】 目的型

【活動地域】 町全体

【活動分野】 観光

【協働の形態】 (主催) 英彦山サイクルタイムトライアル実行委員会 (共催) 町、商工会青年部 (協賛・協力) 多数

英彦山を拠点としたイベントでありながら、企画から実践まで英彦山以外の様々な団体・事業者の協力のもと実施されている。社会教育の一環として始まった事業であるが、県内外から多くの選手や観客が訪れ、今では町を代表する集客イベントの一つとして、観光 PR や関係人口の増加にも寄与している。



活動紹介⑥ 添田駅前のにぎわいづくりを行う「駅前にぎわいマルシェ」

【活動の種類】 目的型

【活動地域】 町全体

【活動分野】 農林業・観光

【協働の形態】 (主催) 居・食・住研究会 (協力) 添田町女性ネットワーク、道の駅 歓遊舎ひこさん出店者協同組合 (後援) 町

平成 29 年九州北部豪雨災害で被災した JR 日田彦山線の添田～宝珠山間が BRT(バス高速輸送システム)で復興することが決定したことを受け、始発駅である添田駅を盛り上げるため、居・食・住研究会が主催し、地元商店街を中心に開催された取組み。

マルシェでは、地元産品の販売や、添田産米のプレゼントのほか、木工体験コーナーも設置され、地元産品の PR や関係人口の増加に寄与する取組みとなっている。



3. あなたの力を発揮するために

まちづくりを担うプレイヤーがお互いの強みを活かして協力・連携し、地域や町全体の課題に効果的な取り組みを行っていくために、次のようなことに取り組みます。

①理解する

「みんなでまちづくり」を知ってもらうきっかけづくりを行います

- 「みんなでまちづくり」を実践する主体とその活動内容について広く周知し、普段まちづくり活動に参加することがない町民に対して当事者意識を育む
- すでに活動に取り組む地域や町民団体、事業者などに対しても、「みんなでまちづくり」の全容を把握し、新たな企画や連携につなげていく

②プレイヤーを見つける・育てる

まちづくり活動に参加する人を増やし、主体的に参画するプレイヤーに育てます

- 地域や町民団体の活動を継続していくために、町民・行政を含めて「みんなでまちづくり」の必要性を認識し、関わる意識を高めていく
- 子どもや学生、子育て世代の興味・関心を高める工夫や参加しやすい環境づくりを行い、新たな人材を発掘していくとともに、活動を牽引する人材の育成を図る

③場所・機会を増やす

まちづくり活動が活発化する環境をつくるとともに、活動をきっかけとした交流を促します

- 町民主体の活動の継続のために、町民が「みんなでまちづくり」の経験を培い、小さな成功体験を積み重ねるための環境を整える
- 既存の集客施設や遊休地・施設の活用も行いながら、町民同士や町外の人との交流機会を増やし、町民発意のまちづくり活動につなげていく
- 行政に関しても、職員同士や町民との対話や交流を通して、協働事業を一層推進させる庁内の環境づくりを行う

STEP 1
知る

STEP 2
参加する

STEP 3
つながる

STEP 4
実践する

STEP 5
伝える

④関係をつくる・深める

効率的・効果的な取組みを推進するために各主体の関係構築を行います

- 町が抱える課題に対し、地域や町民団体、事業者の強みを活かし、対応していくための各主体の関係性の強化を行う
- 「みんなでまちづくり」について考える機会をつくとともに、その機会に多くの人材が関わることができる仕組みやプロセスをつくる
- 庁内各課が連携して、活動を効率的・効果的に推進していくための体制を構築する

⑤資金をつくる

公共的な課題を解決するための活動資金をつくります

- 地域や町民団体、事業者などが公共的な課題を解決するための継続的な活動を支える資金を確保する
- 町の制度を充実させるとともに、添田町のまちづくりに共感した町内外の人が応援・投資できる仕組みや、民間活力の活用など行政のみでない資金や資源を調達する仕組みの多様化を図る

⑥情報を共有する

多くの人が情報を受け取ることのできる機会を創出し、参画につながる情報発信を行います

- 町民や地域、町民団体、事業者、行政、町外の添田ファンなどが添田町のありたい姿実現に向けたまちづくりを「他人事」から「自分事」として捉え、賛同した人の参画を増やしていくため、各主体がきちんと情報を共有できる機会を創出し、参画につながる情報発信を行う
- 地域内や組織内の関係を育むための情報共有を積極的に行う

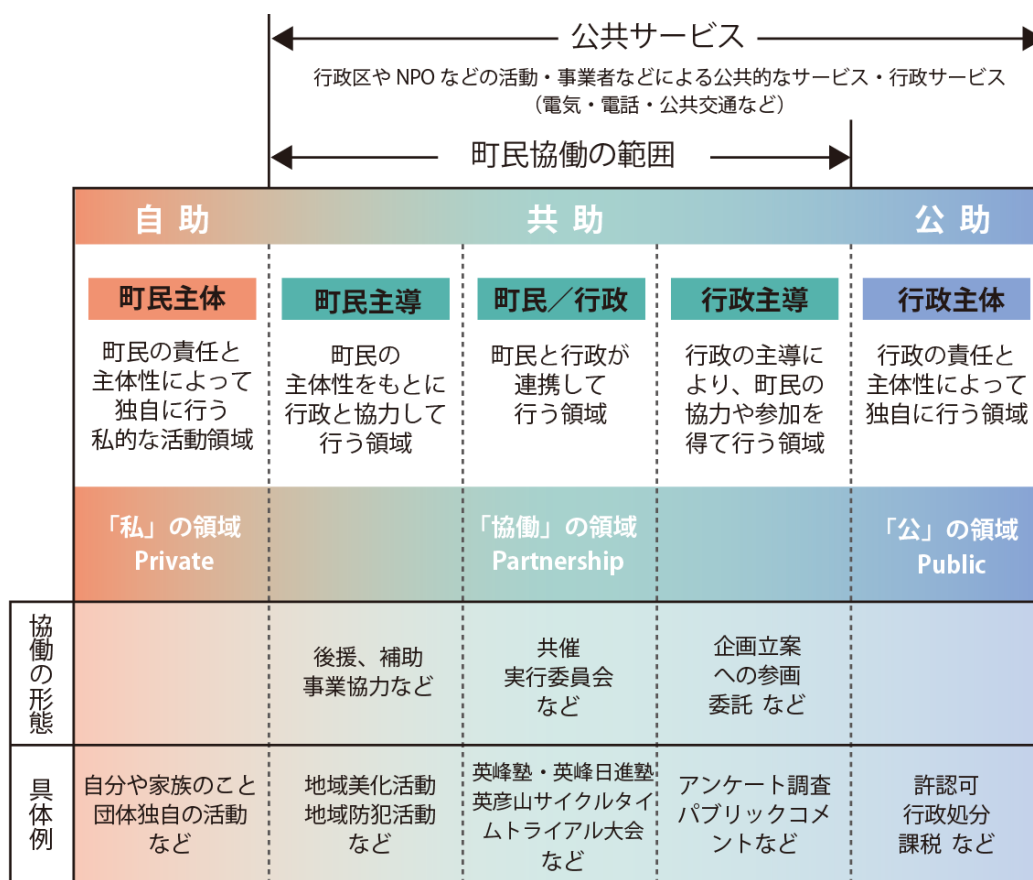
コラム「協働ってどんなやり方があるの？」

○協働の範囲と形態

協働に適した範囲は、公共的な課題解決や町民サービスについて、町民が主導して行うもの、行政が主導して行うもの、町民と行政が連携して行うものが考えられます。

また、協働による事業を行う場合、様々な形態があります。実際に協働を進めるにあたっては、事業の企画から計画、試行、継続的な実施など、様々な段階があり、各段階で協働の内容や行政の関与の仕方も変化していきます。

そのため、協働の形態を検討するうえでは、事業内容とお互いの役割を踏まえ、最も効果のある形態を選択することが重要です。

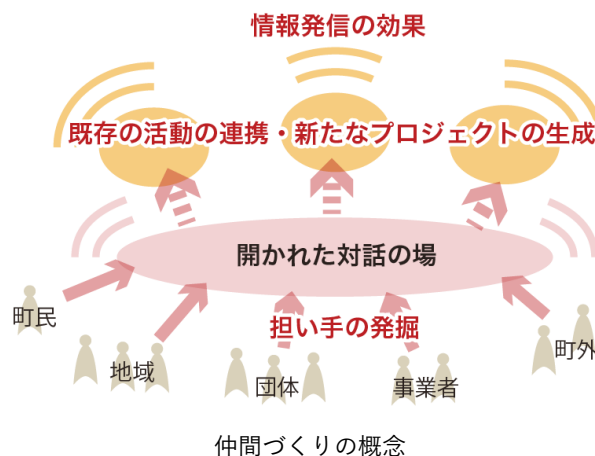


協働の範囲と形態

STEP 3 つながる

1. 個人とつながる：新しい仲間を探すために

- 町内には、日頃から地域や町について問題意識を持ち、主体的に行動を起こす人、アイデアはあっても行動に移す仲間や環境がない人、担い手として手伝いたい気持ちのある人など、様々な立場の人がいます。そうした異なる立場の人たちが出会い、顔を合わせる機会をつくることで、担い手の発掘につながります。
- まちづくりに関心のある人であれば誰もが参加できる開かれた場をつくり、活動の連携や新たなプロジェクトの構築につなげていきます。
- 添田町の様々な活動主体について、情報を一元化して把握できる仕組みも必要です。



2. 地域・団体とつながる：つながりで課題を解決しよう

(1) 地域の将来ビジョンにもとづく、地域内の主体・活動間の結びつき強化

- 地域の経験、ノウハウを他行政区や校区内と共有することで、活動を発展させたり、新たな連携を育み、担い手の確保にもつなげていきます。
- 行政区や校区単位で、地域の魅力や問題点から課題を共有し、今後のまちづくりの方針を話し合う場をつくりまます。(地域のまちづくりビジョンの作成など)



地域の将来ビジョン策定のための
ワークショップ（佐賀市）

知
STEP
1

参加する
STEP
2

つながる
STEP
3

実践する
STEP
4

伝える
STEP
5

(2) 新たなテーマ設定による異分野・団体の連携促進

- 「木育」というテーマで農林業と観光、教育分野を結び付けた「木もくまつり in そえだ」のような集客イベントや、町のシンボルである「英彦山」をテーマとした子ども観光ガイド体験などのように、複数の分野にまたがる新たなテーマを設定し、核となる町民団体をつくることで、連携を促します。
- 定期的な活動報告会や情報を共有できる掲示板の設置などにより、町民団体について日頃から把握できる環境づくりを行います。

「木育」をテーマとしたつながりの事例



「英彦山」をテーマとしたつながりの事例



分野を超えたテーマ設定によるつながり強化のイメージ

(3) 新たな母体の形成による地域型と目的型の活動の連携促進

- 地域型と目的型それぞれの「強み」と「つながり」を活かし、効果的な取組みを企画・実践していきます。
- 地域型と目的型団体が同じ対話の場に立ち、課題の把握から取組みの企画といったプロセスを共有できるような新たな母体を形成することも考えられます。
- まちづくり活動の事例集など、成功事例の積み重ねを共有することで、連携のきっかけをつくりまします。

地域型団体と目的型団体の強みと弱み

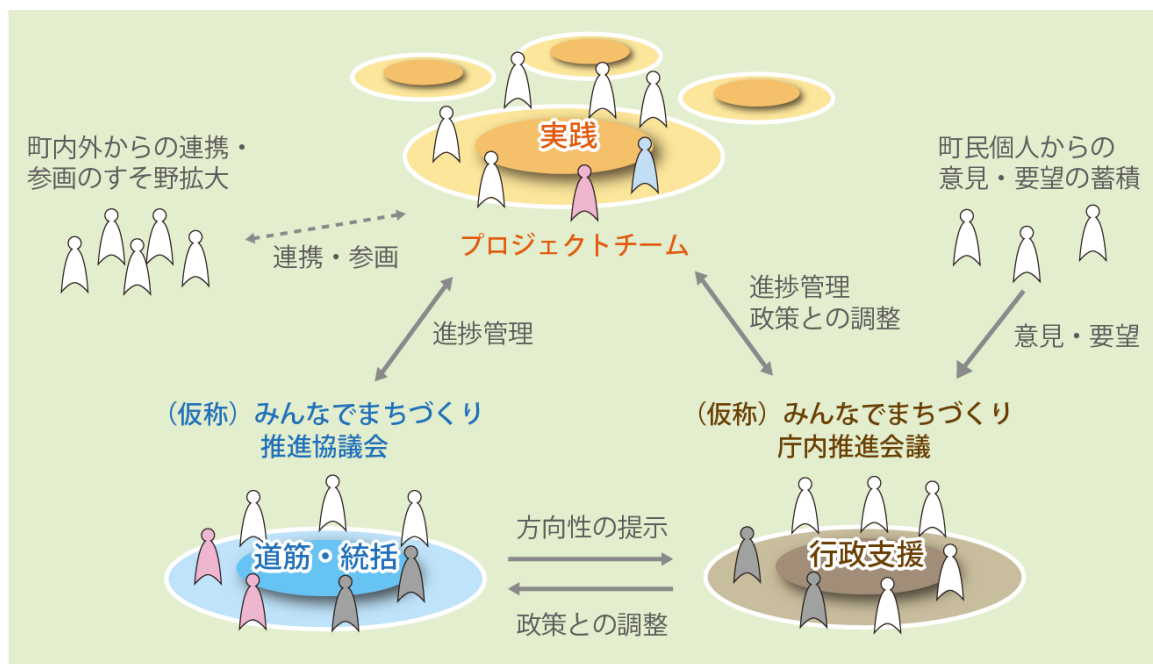
分類	強み	弱み
地域型団体	・小さな単位の中で様々な団体や活動が行われていることで、関係者が共通していることが多く、団体間での連携がしやすい。	・地域の中で完結している。 ・地域によって活動の温度差がある。 ・人手不足、後継者不足という点は町全体で共通した課題となっている。
目的型団体	・「英彦山」や「農林業」、「アート」といった添田町の魅力を活かしたテーマによって活発な活動が展開されている。	・目的によって活動の活発度が異なる。 ・団体間のつながりや地域とのつながりが薄い。

3. 行政とつながる：「みんなでまちづくり」の推進体制

地域や町の抱える問題に対して、町民や地域、町民団体、事業者、行政が議論し、総合的な視点から課題を把握することで、「みんなでまちづくり」の事業を効果的に推進していくための体制をつくります。

全体像は下図の通りです。主に3つの役割を担う組織を新たに設置し、それぞれの役割を果たすとともに、進捗管理や町の政策との調整、新たな人材の参画の枠組みをつくり、実行性を高めます。

- 「みんなでまちづくり」の道筋を示し、全体を統括する役割
→ (1)「(仮称) みんなでまちづくり推進協議会」の設置
- 行政支援のための在り方を検討し、庁内調整、予算・体制を確保する役割
→ (2)「(仮称) みんなでまちづくり庁内推進会議」の設置
- 「みんなでまちづくり」を実践し、町内外からの参画のすそ野を広げる役割
→ (3)「プロジェクトチーム」の設置



推進体制の全体像

STEP 1
知る

STEP 2
参加する

STEP 3
つながる

STEP 4
実践する

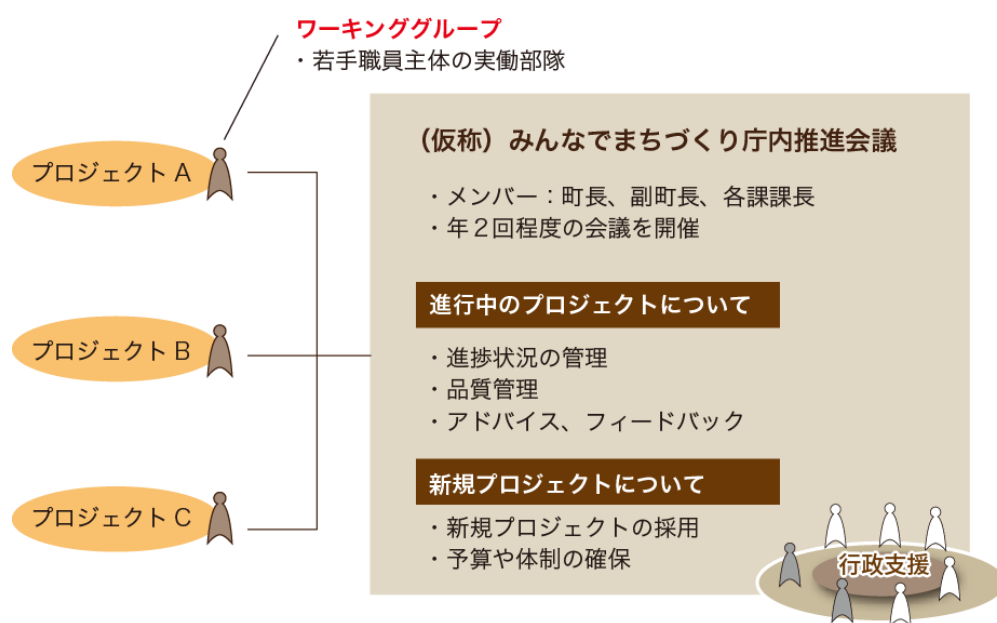
STEP 5
伝える

（１）「（仮称）みんなでまちづくり推進協議会」の設置

概要	町民と行政が対等な立場で対話し、「みんなでまちづくり」を具体化し推進していくための中心組織。プロジェクト間の全体調整や町民・行政間の調整等の統括的な役割を担う。
想定されるメンバー	プロジェクトの推進力となってもらう地域や町民団体、事業者の代表、町民個人、行政職員など
ポイント	後述する「（仮称）みんなでまちづくり庁内推進会議」とプロジェクトチームから代表者を参加させることで、プロジェクトの進捗管理や政策との調整を図る。

（２）「（仮称）みんなでまちづくり庁内推進会議」の設置

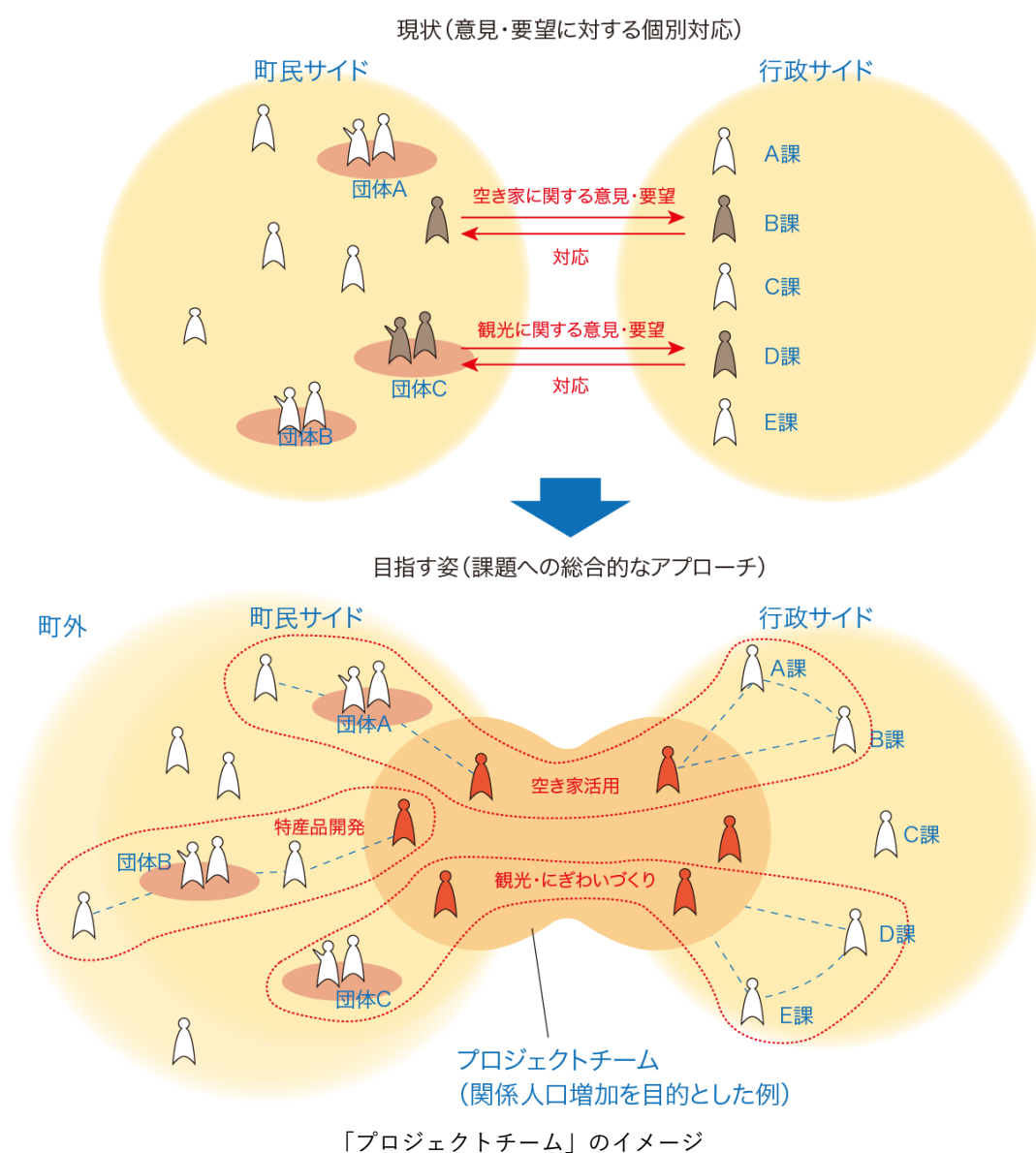
概要	「みんなでまちづくり」の実践に向けて、行政の在り方を検討し、必要な庁内調整や予算、体制の確保を行う組織。
想定されるメンバー	町長、副町長、課長級職員を含む政策立案に関係する職員、プロジェクトチームに参加する職員など
ポイント	後述するプロジェクトチームに、若手職員を主体とした実働部隊を参画させることで、既存プロジェクトの進捗状況の管理や品質管理、新規プロジェクトの採用や予算・体制の確保などを円滑に進める。また、町民個人からの意見・要望を吸い上げ、共有していく。



「（仮称）みんなでまちづくり庁内推進会議」の役割

(3) プロジェクトチームの設置

概要	地域や町全体の課題に対応するための一連の事業やプロセスに中心的に関わる組織。プロジェクトごとに組織を立ち上げ、プロジェクトに関連する直接的な取組みを行っていく。
想定されるメンバー	プロジェクトの中枢を担う町民や地域、町民団体、関係課の職員など
ポイント	メンバーはプロジェクトの企画から実践まで一貫して把握しながら、各段階で、添田町内外の各方面で活動している人材との連携を図ることで、新たなプレイヤーの獲得やつながりの強化を進める。



STEP 1
知る

STEP 2
参加する

STEP 3
つながる

STEP 4
実践する

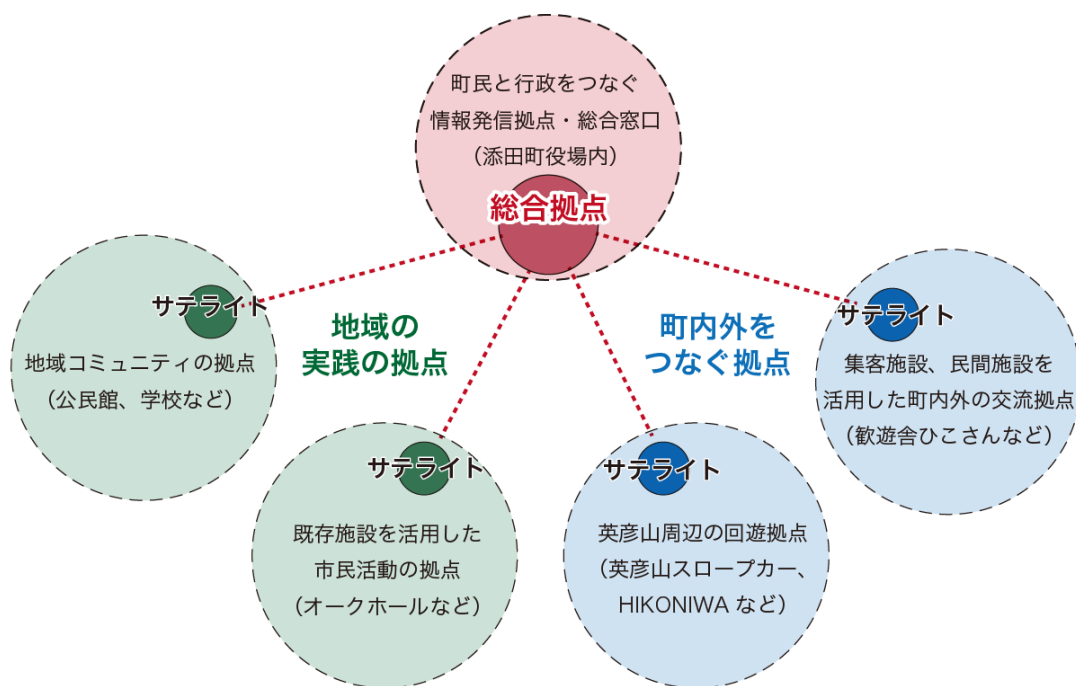
STEP 5
伝える

STEP 4 実践する

1. 実践の場づくり

活動の実践に向けては、長期的な目標として総合的な拠点の創出を図ります。まず、既存の場所を活用し、総合拠点としての機能の試験的な導入を図りながら、拠点機能としての発展を推進していきます。

将来的には、役場 1 階などを活用し、町民と行政をつなぐ情報発信拠点・総合窓口が「総合拠点」となり、地域の実践となるサテライト拠点や町内外をつなぐサテライト拠点が連携することにより、添田町全体で実践の場を広げていくことを目指します。



各拠点と機能の概念

(1) 「みんなでまちづくり」の拠点づくり（総合拠点）

- 総合窓口のような役割として、「何かをやりたい人」「手伝いたい人」をつないだり、必要としている支援の内容を踏まえ、行政の担当窓口の紹介などを行います。

事例 1：フューチャーセンターならしの（習志野市）

市民・団体・学校・事業者・行政の交流や協働、対話を後押しするプラットフォーム。
地域活動の拠点（まちのコワーキングスペース）や情報交換・交流の場、イベントスペース等を兼ね備える。

フューチャーセンターならしの HP より



(2) 地域の実践の拠点づくり（サテライト）

- 公民館や空き家等を活用した地域の拠点や町民の居場所としての機能を有します。
- 生活拠点である役場周辺と魅力発信拠点である英彦山地域を中心とした異分野の町民団体の連携の拠点をつくります。

事例 2：南仙荘（八女市）

空き家物件を活用したサテライトオフィス。
お試しオフィス機能や地域交流拠点の機能を有し、シニア向けの講座や地域の交流イベント等も開催している。

南仙荘 HP より



(3) 町内外をつなぐ拠点づくり（広域連携拠点）

- 集客施設を活用した地域と町民団体、事業者、行政、町外をつなぐ拠点をつくります。

事例 3：SAGA MADO「サガマド」（佐賀市）

「ヒト」、「モノ」、「コト」、「トキ」の情報を開かれた窓から発信してもらう場所。コンシェルジュによる県内全域の情報提供やニーズに応じたサービスを提供している。

サガマド HP より



2. モデルプロジェクトの実施

「みんなでまちづくり」の推進にあたり、モデルプロジェクトを実施することで、プロジェクト立ち上げから企画、実行までの一連のプロセスを通して、協働のまちづくりの経験を培うことを目指します。

ここでは、モデルプロジェクトの例を示します。（※モデルプロジェクトは、実施することが決定しているわけではなく、進め方をイメージとして示したものです。）

モデルプロジェクト1：元気な体づくり応援プロジェクト

【概要】

- ・「健康づくり」をテーマとし、高齢者の健康づくりを実践する行政区が先進事例となり、他行政区へノウハウを提供する取組み。

【プロジェクトの視点】

- ・「健康づくり」を通じた交流の促進や健康寿命の延長を目指す。
- ・高齢者同士の仲間づくりや、地域内の世代間交流につなげる。
- ・ノウハウを提供するプロセスを通じて、行政区間の交流促進や新たな担い手の育成につなげる。

【流れ】

- ①企画検討：先進事例の活動の視察やお試し体験のを踏まえて、プログラムの企画検討を行う。
- ②実施：講師役の行政区の方と共催し、対象行政区の高齢者を対象とした「健康づくり」の体験プログラムを実施する。
- ③継続：自分たちだけで実施できる仕組みづくりや体制をつくり、地域独自の継続的な取組みへと展開していく。

【役割分担】

- ・講師役：伊原行政区や添田東ふれあいサロン等の先進地域が講師となる。
- ・対象の行政区：行政区内の他団体と連携できるよう、まちづくり協議会を設置。
- ・校区内小学校：小学校と連携し、子どもと高齢者の世代間交流につなげる。
- ・行政：保健福祉環境課や住民課、教育委員会等と連携を図る。



町内で行われている健康づくりの取組みの様子

モデルプロジェクト 2：“英彦山の苔”活用プロジェクト

【概要】

- ・ 英彦山スロープカー周辺を拠点として、英彦山周辺の苔（採取可能なエリアから採取）を活用し、苔テラリウム作りプログラムの実施や、お土産としての販売や英彦山地域外への苔の販売を行うプロジェクト。



【プロジェクトの視点】

- ・ 添田町の魅力である英彦山の自然を活かし、周辺の町民団体と地域、観光客と地域をつなぎ、新たなコミュニティビジネスを推進する。
- ・ 子どもから大人まで、地域内外のいろいろな人が参加できるものづくり体験を実施することで体験を通じた交流を育む。
- ・ 英彦山周辺での関係人口増加や、滞在時間延長につなげる。

【流れ】

- ①企画検討：英彦山観光福祉協会が講師役となり、ノウハウを提供。
- ②実施：既存の集客施設を活用し、子どもから大人まで、英彦山地域内外のいろいろな人が参加できるものづくり体験を実施する。
- ③発展：定期的に体験プログラムを開催する。Web を通じて苔の販売を行うなどの商品開発等、さらなる展開を検討する。

【役割分担】

- ・ 主体：英彦山周辺の行政区や町民団体が連携し、苔活用プロジェクトを推進する。
- ・ 講師役：英彦山観光福祉協会（英彦山スロープカー管理者）が講師役となり、ノウハウを提供する。
- ・ 場の提供：英彦山青年の家等の既存施設を活用し、体験プログラムの実施を協力する。
- ・ P R：歓遊舎ひこさんなどの集客施設で、苔の販売や他の特産品とコラボした苔のブランディング・PR を支援する。
- ・ 行政：体験プログラムの広報周知。町内の学校と連携した親子体験プログラムの開催支援を行う。



苔テラリウムづくり体験の様子

知
STEP
1

参
加
す
る
STEP
2

つ
な
が
る
STEP
3

実
践
す
る
STEP
4

伝
え
る
STEP
5

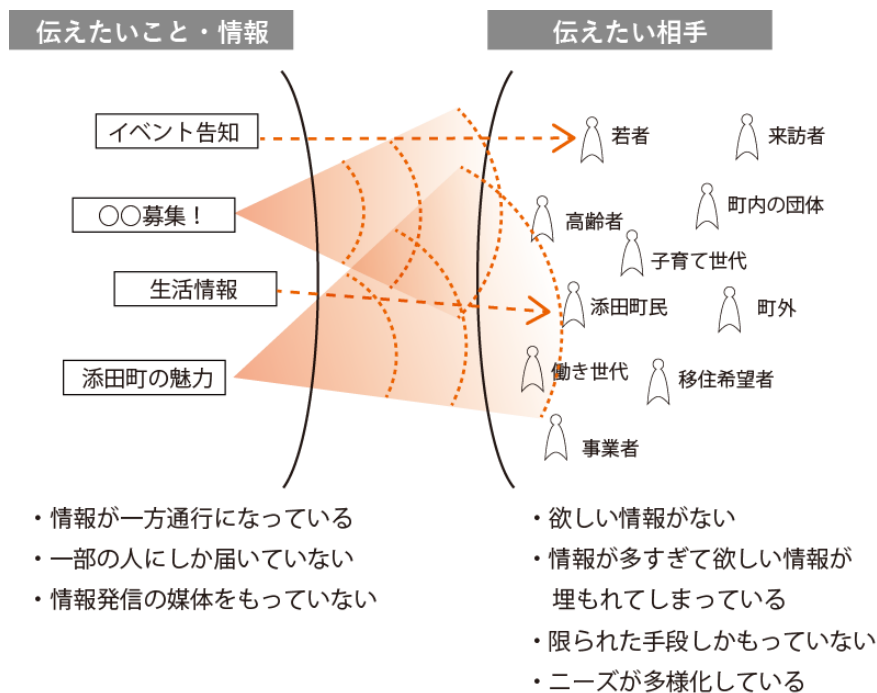
STEP 5 伝える

1. 戦略的な情報発信の必要性

添田町の「みんなでまちづくり」に町民や地域、町民団体、事業者、町外の添田ファンなど、より多くの人を巻き込んでいくためには、それぞれがきちんと情報を受け取ることができる機会を創出し、参画につながる周知を行うなど、計画的な情報発信が必要となります。

また、リモートワークや二拠点生活など、働き方や住まい方が多様化している現代において、添田町の魅力を伝え、関係人口を増やすためにプロモーションの在り方について戦略を打ち出していくことが重要です。

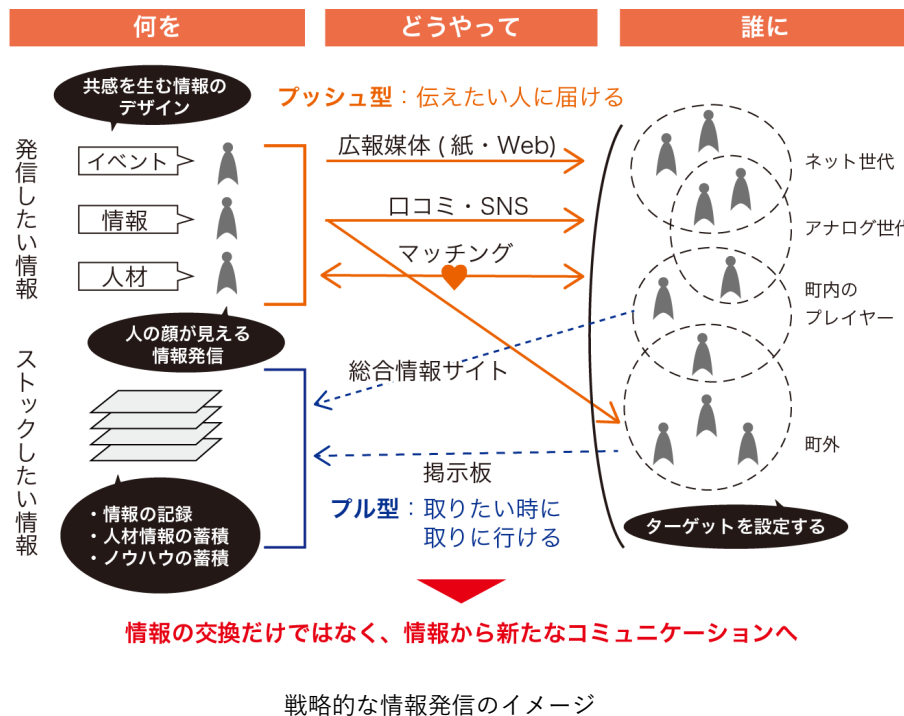
現在添田町では、町民向けには広報誌や回覧板、町ホームページによる発信、町外者向けには町のホームページによる発信が中心となっていますが、届けたい相手に情報が届いていない、情報が届いても興味を持ってもらえないといった問題を職員も認識しており、添田町の情報発信の在り方について見直すことが必要とされています。



添田町の情報発信の現状

2. 情報発信の戦略（何を、誰に、どうやって伝えるか）

今後は既存の情報発信媒体や発信手法、内容等の整理を行い、添田町の情報発信の課題を明らかにするとともに、「みんなでまちづくり」の当事者を増やしていくために実効力のある情報発信を実施していくための戦略が必要となります。



- 「何を」：人の顔が見えるなど共感を生むコンテンツをデザインします
 - ・誰かに届けたい情報と、ノウハウや資料としてストックしておくべき情報など、情報にもさまざまな形がある。
 - ・例えば、添田町においては、人から人へ情報が伝わりやすいという地域性がある。文字だけの情報ではなく、写真を添えることにより人の顔が見える情報とすることで、共感を生むコンテンツのデザインの工夫ができる。
- 「誰に」：届けたい相手に応じてターゲット設定を明確化します
 - ・アナログ世代や、ネット世代など、情報の取り方が多様化している状況がある。届けたい相手に対して具体的なターゲット設定を明確化することで、効率的・効果的な情報発信が可能となる。
- 「どうやって」：情報の目的とターゲットに応じて、効果的な手段の選択を行います
 - ・ターゲットに対して、効果的な手段を選ぶ必要がある。特定のターゲットに直接的にアプローチし受動的に情報を受け取る「プッシュ型」、情報が欲しい人が能動的に情報を取りに行く「プル型」があり、効果的な手法を選択する必要がある。

知
STEP
1

参
STEP
2

つ
STEP
3

実
STEP
4

伝
STEP
5

3. 情報発信の仕組みづくり

- まちづくりに関する各種情報のポータルサイトを構築することで、「みんなでまちづくり」の入口をつくります。

事例1：市民活動 総合ポータルサイト（大阪市）

市民活動紹介や、個人向け情報・団体向け情報・行政支援施策など、ニーズに応じて情報を得ることができるポータルサイト。「団体紹介1分動画100人リレーキャンペーン」として、リレー形式での団体紹介なども行っている。

大阪市市民活動総合ポータルサイト HP より

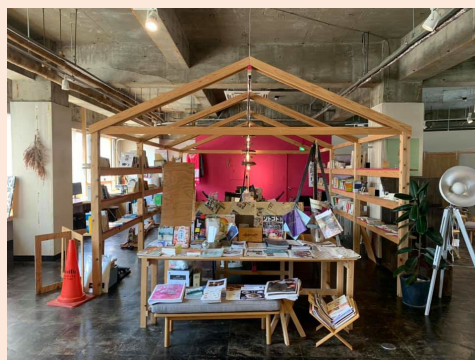


- 観光拠点や町民団体、既存媒体と連携し、Web上や媒体上のみならず、リアルでもつながれる、コミュニケーションや対話を育む情報発信の拠点づくりを行います。

事例2：Mekuruto（メクルト）（久留米市）

JR久留米駅そばのシェアオフィス・ワークキングスペース。筑後エリアにある地域資源やそれらを取り巻く課題を、ワークスタイルやくらしを通じて、発掘・発見・編集・発信を行うローカルメディアの情報発信基地としての役割を持つ。

Mekuruto Facebook より



- 役場の1階ロビースペースや既存の集客施設を活用した掲示板の設置を行うことで、より幅広い人が「みんなでまちづくり」の情報に触れる機会を創出します。
- SNS時代を踏まえ、魅力あるコンテンツ・サービスの提供を行うことで、幅広いターゲット層への周知や「みんなでまちづくり」への意識醸成を行います。

事例3：パネル展示、情報発信ブースの設置（福岡市）

民間と市が協働し、商業施設のスペースを利用して一定期間のパネル展示や物販イベントを展開。市民にわかりやすい展示や意見募集コーナー、リーフレット配布など、幅広い市民への周知・啓発を実施。



添田町みんなでまちづくり指針

令和4年3月発行

発 行：添田町役場 総合企画財政課

住 所：福岡県田川郡添田町大字添田 2151

連絡先：0947-82-1231 FAX：0947-82-2869

